田村市立都路中学校
学校だより 第２３号

令和６年１０月１１日（金）
発行責任者：校長　佐藤　仁
TEL：0247-75-2009

めざす生徒像：自らの志を語り、目標に向かって主体的に努力できる生徒
めざす学校像：志を育む学校　　学び合い、高め合う学校　　信頼され、愛される学校

令和６年度前期　無事終了

１０９日あった令和６年度前期が終了しました。教育活動を進めていく中で、保護者の皆様や地域の皆様のご理解・ご協力がいかに大切かを痛感した日々でした。保護者の皆様や地域の皆様のおかげで、子ども達が大きな事件や事故に遭うことなく学校生活を送ることができました。本当にありがとうございました。後期もよろしくお願いいたします。

令和６年度　期分け式式辞

今日は前期の最終日です。今年度の折り返しの時期です。前期を振り返ってみると、運動面や文化面における皆さんの活躍が、都路町の人々に元気や笑顔を届けました。皆さんの活躍もさることながら、先生が一番うれしいのは、皆さんが大きな事故にあったり、けがをしたりすることなく、当たり前に学校生活を送ることができたことです。後期も何気なく過ぎていく日々を大切に学校生活を送ってほしいと思います。

さて、今年１月に起きた地震や９月の豪雨により、石川県、特に能登半島の人々は、大きな被害を受け、当たり前に過ぎていく日常を奪われました。連日、テレビやネットで被害の大きさ、失われた命、未だ行方不明の人々のことが報道されました。犠牲になった人々の中に、１４歳の女子中学生がいました。遺体が発見されるまで、消防隊員や警察、自衛隊員とともに、娘を探す父親の姿は、１％でも娘の生存を祈る親の強い思いを感じました。捜索を続ける中で、娘の「へその緒」が入った木箱が発見されました。「祝　誕生」と書いてある箱を見たときの親の思いを考えると言葉がありません。地震、そして豪雨災害の犠牲になった方々のご冥福を心からお祈りします。

突然、当たり前の日常を奪った石川県の地震や豪雨災害、それは、どこででも、誰にでも起こりえます。１３年前に起きた東日本大震災や原発事故により、私たちは、当たり前の生活を奪われました。自然災害だけでなく、私たちの日常をおびやかすものはたくさんあります。そんな中で、私たちが心にとどめておかなければならないことは、何気なく過ぎていく日常は、決して当たり前ではないということ、そして、多くの人の支えがあって毎日の生活が成り立っているということです。

２、３年生は、２度目になりますが、「何気なく過ぎていく日々の尊さ」をうったえた作家のことばを皆さんと共有したいと思います。

いつだって人生は、９９．９％の変わらぬ日常と０．１％の初めての瞬間でできている。
季節の移ろいも、帰宅する道のりも、毎日食べるご飯や見慣れた顔も。
目新しい物は何もないと悲しむには、９９．９％の日常があまりにもったいない。
代わり映えのない日常こそ、かけがえのない日々、その中にある幸せに気づかされ、
思わずほろりとする。　　（戸田郁子　**Asahi Shimbun GLOBE＋**）

９９．９％の代わり映えのない毎日が、人生を支えています。９９．９％の当たり前の日々があるからこそ、ここぞという時に頑張れます。挑戦する勇気が出ます。９９．９％の何の変哲もない日々があるからこそ、つらいことや悲しいこと、泣きたくなるようなことがあっても、乗り越えることができます。

生徒の皆さんが、９９．９％の当たり前に過ぎていく日々を大切にして、後期も学習や運動に努力を重ね、活躍することを願って式辞とします。